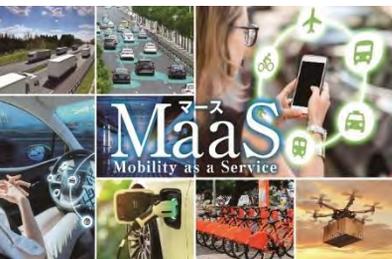


2022年5月23日
日興アセットマネジメント株式会社



グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド (1年決算型) / (年2回決算型)

愛称: グローバルMaaS(1年決算型) / (年2回決算型)

足元の基準価額の動向について

※ 当資料において、「1年決算型」は「グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)」、「年2回決算型」は「グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(年2回決算型)」を指します。

- 当ファンド(1年決算型)の基準価額は、2021年11月半ばに最高値をつけました。その後、インフレが一段と進んだことなどを受けて、米FRB(連邦準備制度理事会)が金融政策の正常化(引き締め)を急ぐとの見方が拡がり、米長期金利が上昇傾向となると、基準価額は軟調な推移となりました。また、2022年2月には、ロシアがウクライナへの軍事侵攻を開始し、各国がロシアに対する経済制裁措置の導入に動くなど、地政学リスクが高まったことも、基準価額の下押し要因となりました。
- 4月に入ると、中国での新型コロナウイルスの感染再拡大に伴ない、都市封鎖の範囲が拡大する可能性が高まったことなどを受けて、同国経済の先行き懸念が拡がったほか、決算発表を受けて成長期待が剥落した一部の米テクノロジー関連銘柄が売り込まれたことなどが、市場心理を悪化させました。このような中、グロース株やハイテック株が多いMaaS(Mobility as a Service)関連銘柄は相対的に大きく下落し、当ファンドの基準価額も大きく値下がりしました。
- 次ページ以降で、組入銘柄のパフォーマンス寄与度や、当ファンドのマザーファンドの運用に助言を行なうアーク・インベストメント・マネジメント・エルエルシー(ARK)からのメッセージについて、ご紹介します。

当ファンド(1年決算型)の基準価額の推移



※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口あたりの値です。

世界株式: MSCI AC Worldインデックス(配当込、米ドルベース)の値を、基準価額の算出方法に対応させるため、前営業日の値に当日の為替を適用して円換算

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型) / (年2回決算型) 愛称: グローバルMaaS(1年決算型) / (年2回決算型)」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

組入銘柄のパフォーマンス寄与度について(2021年11月17日～2022年5月12日)

- 当ファンド(1年決算型)の基準価額が最高値をつけた2021年11月17日以降のパフォーマンスは、FRBによる金融政策正常化の加速懸念や、ロシアによるウクライナ侵攻などの影響を受けて、▲35.5%となりました。
- 銘柄別のパフォーマンス寄与度をみると、**企業業績の先行き懸念やサプライチェーン問題が嫌気された銘柄などがマイナス要因**となった一方、**地政学リスクの高まりがプラスに影響した銘柄や、革新的な新製品を発表した銘柄などがパフォーマンスを下支え**しました。

グローバル・モビリティ・サービス株式マザーファンドにおけるパフォーマンス寄与度

(2021年11月17日～2022年5月12日)

寄与度上位5銘柄

銘柄名	国名	寄与度
エアロバイロメント	米国	0.43%
エルビット・システムズ	イスラエル	0.38%
ディア	米国	0.34%
小松製作所	日本	0.19%
キャタピラー	米国	0.16%

地政学リスクの高まりなどがプラスに寄与

軍事用の中小型無人航空システム大手。ウクライナ情勢の緊迫化を受けて、防衛関連機器への需要拡大が期待され、株価が上昇。

新製品の発表などがプラスに寄与

農機メーカーである同社は、自動運転トラクターの販売を年内にも開始すると発表。また、ウクライナ情勢を受けた商品価格の上昇が農家の収益を押し上げ、より効率的な農機に対する投資を促すと期待されたことなどから、株価が上昇。

寄与度下位5銘柄

銘柄名	国名	寄与度
ユーアイパス	米国	▲4.99%
ユニティ・ソフトウェア	米国	▲4.61%
トゥーシンプル・ホールディングス	米国	▲3.04%
ニウ・テクノロジーズ	中国	▲2.43%
テスラ	米国	▲1.86%

企業業績の先行き懸念や、サプライチェーン問題などがマイナス要因に

2021年11月-2022年1月期の決算は市場予想を上回る内容だったものの、欧州事業の比率の高さを理由に企業側が業績見通しを下方修正したことなどから、株価が下落。

同社がサプライチェーン問題の長期化の可能性に言及したことや、CEOのイーロン・マスク氏が米SNS大手の買収資金の一部を同社株式の売却により手当てすることの見方が広がったことなどから、株価は軟調に推移。

※パフォーマンス寄与度は、上記期間中の基準価額の変動において、各銘柄の変動がどれだけ影響しているかを示したものです。

※各銘柄の日次の保有比率および株価を基に計算した概算値であり、実際の取引価格やファンドが負担するコスト(売買手数料や信託報酬など)などは考慮されていません。また、外貨建ての銘柄については、円換算済みの概算値となっています。そのため、実際の基準価額の騰落に対する寄与度を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

※当ファンドにおける各銘柄の保有期間は異なります。

上記は、情報提供を目的として、ARKからのコメントをもとに、日興アセットマネジメントがまとめたものです。個別銘柄に言及していますが、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当ファンドにおける将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・モビリティ・サービス株式マザーファンド(1年決算型) / (年2回決算型) 愛称: グローバルMaaS(1年決算型) / (年2回決算型)」へのご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ARKからのメッセージ

これまで進行してきたイノベーション これは、もはや止めることができない大きな潮流に

■ 中長期の時間軸で見れば、イノベーション関連銘柄は割安な水準に

ここ1年を振り返ると、コロナ・ショックとはまた別のショックが起きているように思います。それは、インフレと金利上昇に対するショックです。こうしたショックの渦中にあるとき、株式市場では、ごく限られた観点に基づき、それに関連した売買が集中して行なわれることがあります。この1年はどうかという、インフレと利上げ、そしてそれが市場におけるバリュエーションを破壊するのではないか、つまり高いPERは維持出来ないのではないか、という観点です。そして、ご承知のようにバリュエーションの高い銘柄が売られました。

この1年間、短期的な視点でのバリュエーションが高い銘柄が売られる中で、ARKが保有を助言していた銘柄も大きく値下がりました。しかし、ARKは5年といった長い時間軸での収益を前提に企業価値を考えており、中長期の時間軸で見れば、保有助言銘柄のバリュエーションは魅力的な水準にあると考えています。このところの株価調整を経て、私たちが注目するイノベーション関連銘柄のバリュエーションは大幅に低下し、ディープバリュー（極めて割安）の状態にあると考えています。

この先、イノベーション関連企業が大きな市場シェアを獲得する可能性が高まるとみており、イノベーションとの関連性の低い従来型企業のリスクを投資家が織り込み始めれば、イノベーション関連銘柄が再び注目を集めると考えています。

■ 成長を続けるイノベーションは、企業に売上と利益をもたらす

これまで進行してきたイノベーション、それがコロナ危機との戦いの中でさらに加速することとなりましたが、もう止めることのできない潮流となっています。そして、様々なテクノロジーの融合が、今まさに進行中であり、成長を生み出し続けていくでしょう。

2000年代初めにかけてのITバブルの際には、IT関連というだけで売上のない赤字企業も大きく上昇しました。しかし、我々が着目するイノベーション関連企業は、しっかりと収益を上げ、高い成長率の実現が期待できる、実態のある会社と考えています。

改めまして、日頃よりご愛顧いただきありがとうございます。そして、我々の取り組みをご理解いただきありがとうございます。我々は、この荒波の向こう側には明るい未来があると信じています。

Catherine D. Wood ARK創業者、CIO/CEO

- 2014年1月にARKを設立する前は12年間大手運用会社にてグローバルテーマ株式運用のCIOとして50億米ドル以上を運用。
- ダボス会議への出席や、2016“Women in Finance, Outstanding Contribution Awarded”、2018“Bloomberg’s Top 50”での選出など、今、業界で最も注目される人物のひとり。

上記は、当ファンドのマザーファンドに助言を行なっているARKからのコメントをもとに、日興アセットマネジメントがまとめたものです。当情報は、資料作成時点における市場環境について、運用担当者の方の見方あるいは考え方を記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型) / (年2回決算型) 愛称: グローバルMaaS (1年決算型) / (年2回決算型)」へのご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

設定来の基準価額・純資産総額の推移

1年決算型

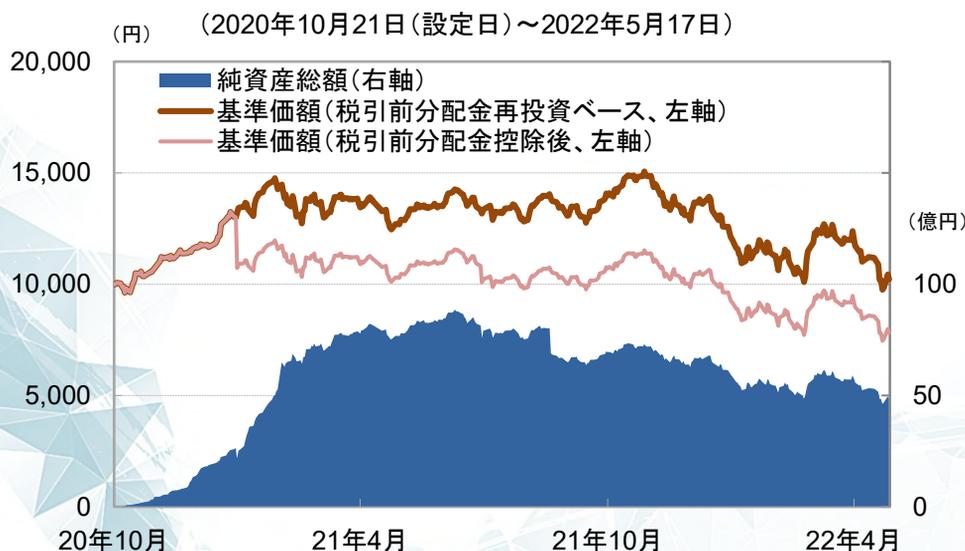


基準価額
15,454円
純資産総額
526億円
2022年5月17日現在

分配金実績

2019年1月	0円
2020年1月	0円
2021年1月	0円
2022年1月	0円
設定来合計	0円

年2回決算型



基準価額
(税引前分配金再投資ベース)
10,233円
(税引前分配金控除後)
7,833円
純資産総額
48億円
2022年5月17日現在

分配金実績

2021年1月	2,500円
2021年7月	600円
2022年1月	0円
設定来合計	3,100円

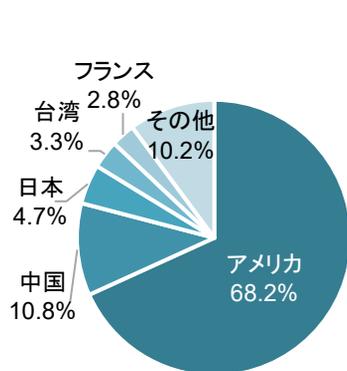
※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の、分配金は税引前の、それぞれ1万口当たりの値です。
 ※税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したものと計算した理論上のものであることにご留意ください。
 ※分配金額は収益配分方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

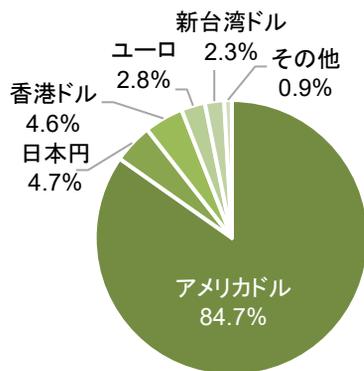
当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型) / (年2回決算型) 愛称: グローバルMaaS (1年決算型) / (年2回決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ポートフォリオの状況 (2022年4月末時点)

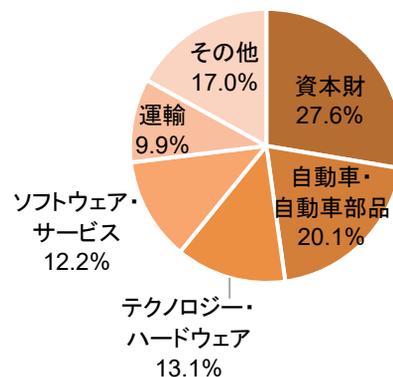
【国・地域別比率】



【通貨別比率】



【業種別比率】



※ 四捨五入などの関係で合計が100%とならない場合があります。

【組入上位10銘柄】

(銘柄数: 39銘柄)

順位	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	比率
1	TRIMBLE INC	アメリカドル	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	8.8%
2	TESLA INC	アメリカドル	アメリカ	自動車・自動車部品	8.7%
3	KRATOS DEFENSE & SECURITY	アメリカドル	アメリカ	資本財	5.8%
4	AEROVIRONMENT INC	アメリカドル	アメリカ	資本財	4.9%
5	小松製作所	日本円	日本	資本財	4.7%
6	UIPATH INC - CLASS A	アメリカドル	アメリカ	ソフトウェア・サービス	4.3%
7	DEERE & CO	アメリカドル	アメリカ	資本財	4.0%
8	BLADE AIR MOBILITY INC	アメリカドル	アメリカ	運輸	3.8%
9	ALPHABET INC-CL C	アメリカドル	アメリカ	メディア・娯楽	3.5%
10	UNITY SOFTWARE INC	アメリカドル	アメリカ	ソフトウェア・サービス	2.8%

※ 上記はマザーファンドの状況です。比率は、マザーファンドの純資産総額に対する比率です。

※ 個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。また、上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。

※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、投資者の皆様へ「グローバル・モビリティ・サービス株式会社ファンド(1年決算型) / (年2回決算型) 愛称: グローバルMaaS (1年決算型) / (年2回決算型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

以下は大和証券でお申込みの場合です。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

お申込みメモ

手数料等の概要

商品分類	追加型投信／内外／株式
購入単位	100円以上1円単位※または、100口以上1口単位 ※購入時手数料および購入時手数料にかかる消費税等相当額を含めて上記の単位となります。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	<1年決算型>2028年1月20日まで(2018年1月31日設定) <年2回決算型>2028年1月20日まで(2020年10月21日設定)
決算日	<1年決算型>毎年1月20日(休業日の場合は翌営業日) <年2回決算型>毎年1月20日、7月20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	<1年決算型> 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 <年2回決算型> 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。基準価額水準が1万円(1万口当たり)を超えている場合には、分配対象額の範囲内で積極的に分配を行いません。 ※基準価額の1万円超過額(1万口当たり)について全額分配をめざすものではありません。また分配金額が少額となる場合があります。 ※分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行いません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
スイッチング(乗換え)	「1年決算型」と「年2回決算型」との間でスイッチング(乗換え)を行なうことができます。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。
＜お客さまが直接的に負担する費用＞

購入時手数料	購入金額に以下の手数料率(税込)を乗じて得た額とします。	
	購入金額	手数料率(税込)
	1億円未満	3.3%
	1億円以上5億円未満	1.65%
	5億円以上10億円未満	1.1%
	10億円以上	0.55%
スイッチング手数料	ありません。	
換金手数料	ありません。	
信託財産留保額	ありません。	

＜お客さまが信託財産で間接的に負担する費用＞

運用管理費用(信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対し年率1.925%(税抜1.75%)
その他の費用・手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。また、有価証券の貸付は現在行っておりませんので、それに関連する報酬はかかりません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社	受託会社	三井住友信託銀行株式会社
投資顧問会社	日興アセットマネジメント アメリカズ・インク	販売会社	大和証券株式会社 ほか

お申込みに際しての留意事項

■リスク情報
投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様へ帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。
当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。主なリスクは以下の通りです。
【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリーリスク】
※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。
■その他の留意事項
●当資料は、投資者の皆様にご「グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)／(年2回決算型)」愛称:グローバルMaaS(1年決算型)／(年2回決算型)へのご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。●当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。●投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。●分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。●投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様へ帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡しますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

設定・運用は



大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号
加入協会:日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、
一般社団法人日本STO協会



日興アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料は、投資者の皆様にご「グローバル・モビリティ・サービス株式ファンド(1年決算型)／(年2回決算型)」愛称:グローバルMaaS(1年決算型)／(年2回決算型)へのご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。